

「地域文化が教育に与える力」を目的にしたりした。沖繩県うるま市勝連町に起きた奇跡のような出来事である。種をまいたのは旧勝連町の教育長だった。この町には世界遺産の勝連城跡があるが、城主は首里の逆賊とされている。教育長は、城主の賢君としての側面に光を当て、伝統芸能「組踊り」の舞台を通して地域の子供に伝えようと考えた。その大役を当時31歳の演出家、平田大一人に任せただけである。

稽古の初日、集まったのは7人だけ。そこには大人の壁があった。シャイな田舎の子に舞台など無理、部活動や塾で忙しいと大反対された。送り迎えをしてくれるならという親もいて、彼の仕事は役所のバスで子供を迎えに行くことから始まった。それから3カ月、参加メン

品川女子学院校長 漆紫穂子



バーは150人に膨れあがり、2日間の公演には4200人の観客が来場したのだ。1回限りと思っていた平田

肝高の子供たち

うるし・しほ「東京都内の私立校教諭を経て品川女子学院で学校改革に着手。社会で活躍する女性の育成を目指す。昨年4月から現職。文科省新システム開発プログラム委員。通った。昨年は東儀秀樹氏も出演し、客席には市川団十郎の氏姿もあった。知人から「教育関係者として1度見るべき」と勧められて1度見るべき」と勧められ、沖繩に舞台稽古を見に行かすのか。尋ねてみた。

氏だったが、子供たちが町に嘆願書を提出し、継続した。あれほど反対した親はサポーターとなり、近所に引越してくる家庭まで出た。評判が評判を呼び、初の東京公演は入場券が完売。当時現職大臣だった竹中平蔵氏は、文化を基調とした地域再生のモデルだと沖繩まで4回

旧勝連町が「子育て宣言」を考えた際、子供たちから「地域貢献」という言葉が自然と上がったという。舞台の名は「肝高の阿麻和利(あまわし)」。子供が変わり、大人が変わり、地域はまさに「誇り」を取り戻したのだ。平田氏は言う。「自分が特別なのではない。若い自分にチャンスを与えたその恩に報いたいと力が沸いた。どこの地域にも文化という宝、人材という宝は眠っている」

「最初はだれも続くと思っがシャイな姿でやってくていなかった。でも、自分が「男子は」「草刈り作業で遅れてます」。なん分達成感もあつてのめりこんだ。ヒップホップと違う伝統芸能もかっこいいと思うようになった。ここは田舎で馬鹿情が一変した。一人ひとりがにされるから外に出ることはかり考えていたけれど、今は歴史と地域を誇りに思う」

3月3日、ヤクルトホール(東京・新橋)で平田氏の講演があり、私も参加する。地域の教育力を取り戻すヒントを得る機会になるだろう。

教育

毎週水曜日掲載